



1.しんこの由来や作り方について

2.しんこの型枠は、種類が豊富

3.餅粉を練り、食紅で色付け

共同利用実習(大阪産業大学)で、佐渡の食文化の一つ、しんこ作りの体験を行いました。

4.木型に、練った餅粉をはめ込む

5.型から外して蒸すと、できあがり!



新潟大学演習林ニュースレター

Niigata University Forest Newsletter

新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション

第9号 2017年11月

平成29年度全国大学演習林協議会秋季総会



平成29年度全国大学演習林協議会秋季総会を、9月28日にラマダホテル新潟において開催いたしました。本総会は新潟大学が幹事校として開催準備を進めてきました。当日は、午前中から森林管理技術賞表彰委員会、技術職員連絡会議、理事会などが開催され、午後から総会が行われました。全国の大学演習林から90名近くの教職員が集まり、末吉農学部長の挨拶、技術職員の表彰式、文科総会で挨拶する末吉農学部長省の挨拶の順に始まりました。総会では教育関係共同利用拠点、公開森林実習、共同研究などが議論され、各大学における最近の動向などが報告されました。終了後の懇親会では、全国の演習林教職員のざくばらんな意見交換による、意義深い交流が行われました。新潟の料理や地酒を堪能していただき、最後は恒例となった(?)じゃんけんゲームで、新潟大学と縁のある日本酒の獲得を競い合いました。

翌日は、佐渡島の演習林の視察に60名ほどが参加しました。佐渡演習林に、この規模で人が入るのは初めての事です。島内では、演習林の公用車に加え、佐渡にある新潟大学の朱鷺・自然再

生学研究センターと理学部附属臨海実験所から公用車

を借り受け、計8台連なって山中を動く様子は、どこかのキャラバンのよう8台の車に分乗して移動しました。演習林では、風衝地、天然スギの巨木が観察できるトレッキングコース「王様の小径」などを視察していただきました。佐渡ステーションにも立ち寄り、施設や設備の見学を行いました。佐渡の自然や佐渡演習林での教育、研究の取組について様々な質問、意見をいただきました。おまけとして、帰りの両津港では、初めて見る佐渡のお土産にも、楽しんでおられたようでした。

王様の小径を歩く参加者



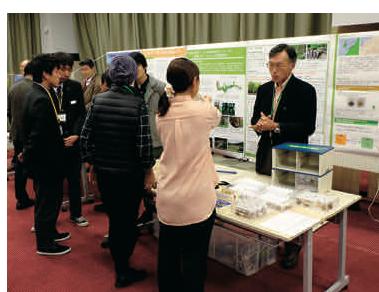
来年の秋季総会は琉球大学が幹事校となり、名護市で開催される予定です。

(教授 崎尾均)

新潟大学佐渡3施設合同フォーラム

11月11日、トキ交流会館(佐渡市新穂潟上)で新潟大学佐渡3施設合同フォーラム「森里海を探求しよう」を開催しました。

フォーラムでは、佐渡島にある新潟大学の3施設(『森』農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション、『里』朱鷺・自然再生学研究センター、『海』理学部附属臨海実験所)で



各施設の紹介ポスターや調査道具も展示した

どのような研究を行っているのか、佐渡の皆さんに向けて発表しました。今回は佐渡中等教育学校と佐渡総合高等学校の生徒さん達が取り組んでいる活動についての発表もありました。地元の佐渡を盛り上げようと、試行錯誤しながら

開催したイベントや棚田での環境保全活動については、大変興味深く、今後の展開も非常に楽しみなものでした。また、ゲスト講師として、沖縄科学技術大学院大学からアリ研究者の吉村正志さんを招き、現在、沖縄で地域の方たちと一緒に協力ながら行っている「OKEON 美ら森プロジェクト」についてお話ししていただきました。交流セッションでは、新潟大学の農場で生産された牛乳を使った「新大アイス」を食べながら、和やかな雰囲気で対話、意見交換を行うことができました。参加して下さった皆さま、ありがとうございました。



(特任助手 菅尚子)

シリーズ

実習紹介④ JST さくらサイエンスプラン

さくらサイエンスプランとは、アジアの将来を担う若者を日本に短期的に招待し、科学技術分野での交流を深めることを目的とした事業です。この事業により、10月に中国雲南省のシーサンパンナ熱帯植物園から教員、学生の計11名が佐渡に来島しました。

中国南西部に位置するシーサンパンナはミャンマー・ラオスと国境線を接し、一年中温暖な気候が続く熱帯雨林気候に属する場所です。ふだん熱帯で生活する彼らにとって、多雪地である佐渡の自然はとても新鮮だったようです。特に、佐渡演習林名物ともいえる雪圧により複雑に変形した天然スギや、強風により樹木が失われた風衝地では驚きのあまり歓声が上がるほどでした。ま



浅瀬でアメフリシを見つけて満面の笑み

た、シーサンパンナは内陸に位置するためか、海にも皆さん大興奮でした。理学部附属臨海実験所の見学では皆さん楽しそうに標本や海洋生物を眺めていました。

さらに、佐渡の自然や施設の案内だけで終わらないのが佐

渡演習林流のおもてなしです。せっかく日本に来てくれたのだから日本の料理、佐渡の幸を少しでも多く食べてもらいたいと、食事にも工夫を凝らしました。皆さん、日本食に興味津々で、初めて見る食材も迷わず口に運び、おいしいと言ってたくさん食べてくださいました。

私自身、今年だけで研究や留学を通じてタイとラオスに計4度も行かせていただきました。異国の地では文化、料理、自然など全てが新鮮でわくわくします。あのなんとも言葉にはし難いわくわく感は、実際に見て空気を感じなければわからないものだと思います。我らの佐渡演習林が私の感じたようなわくわくを彼らに提供できたようで、私はとてもうれしく思います。

(佐渡研究室 修士課程1年 井田勇也)



大王杉の前で記念撮影

研究紹介⑥ 里山管理と土壤動物

日本の農村地域には里山と呼ばれる森林一水田複合景観が多く存在します。水田や森林、ため池など、多様な景観がモザイク状に存在する里山には多くの絶滅危惧種が存在します。その一方で、地域住民の高齢化に伴う耕作放棄地の増加、コンクリート製の用水路などの設置による景観の分断、それに伴う生物の生息地間の移動の制限や繁殖地の消失など、日本の里山が抱える問題は少なくありません。

里山の土壤中には多くの土壤動物が存在し、土壤中の有機物を分解することで里山の物質循環機能に深く関与しています。土壤動物とは土壤中で生活する生き物のことを指し、アーバのように肉眼では発見できないほど小さい物から、モグラのような地中で生活する哺乳類もこれに含まれます。私の研究ではこれらの



採取した土壤動物

うち、トビムシやミミズなどの中型～大型土壤動物の一部を対象とし、里山の管理手法の違いが土壤動物群集に与える影響を調査しています。里山の水田畔、林縁、林内の三つの景観で土壤動物を採取し、土壤動物群集の機能群組成を比較することで各里山が置かれた現状を評価することを試みています。

昨年度は、過度な圃場整備がされておらず、景観の分断の少ない伝統的な里山景観が存在する岩首集落で調査を行い、水田畔～林内にかけての土壤動物の機能群組成は極めて類似することが示されました。今年度からは圃場整備がされており畔と林縁の間が分断された複数の里山において調査を行い、昨年度のデータとの比較を進めております。



佐渡市岩首集落に残る伝統的な里山・棚田景観

(佐渡研究室 修士課程1年 古郡憲洋)

共同利用実習募集中!

佐渡ステーションでは、共同利用実習や演習林での調査・研究の受け入れを随時行っています。お気軽にご相談ください。

実習の様子などをブログで紹介しています

佐渡研究室 検索

編集後記： 今年度も無事に実習シーズンが終了しました。研究、実習で来島した皆さん、佐渡の自然はいかがでしたか？大幅に遅れていますが、実習の様子などもブログに順次アップしております。演習林の日常などの記事も載せておりますので、こちらもご覧いただければ幸いです。

(特任助手 菅尚子)

新潟大学演習林ニュースレター

編集・発行：新潟大学農学部フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション

〒952-2206 新潟県佐渡市小田94-2

tel: 0259-78-2613 fax: 0259-78-2929 e-mail: sadoken2011@gmail.com

ホームページ http://www.agr.niigata-u.ac.jp/fc/sado_html/sado_index.html

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。